

経営比較分析表（令和4年度決算）

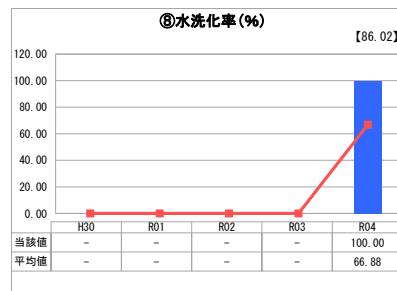
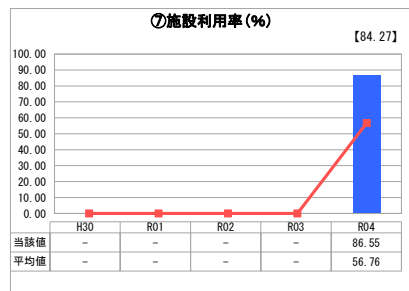
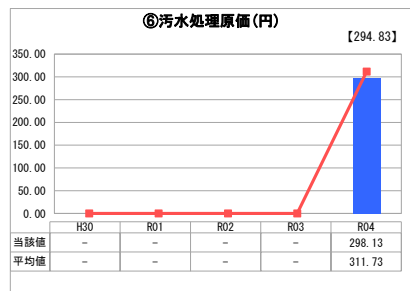
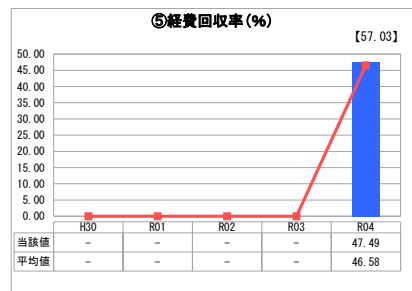
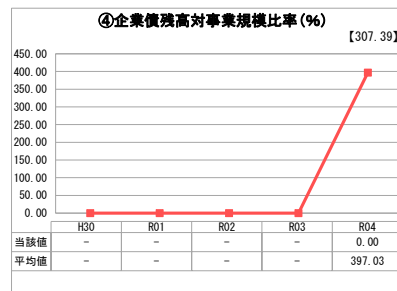
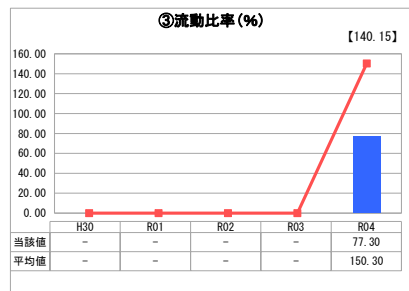
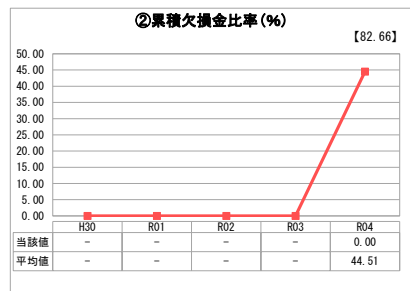
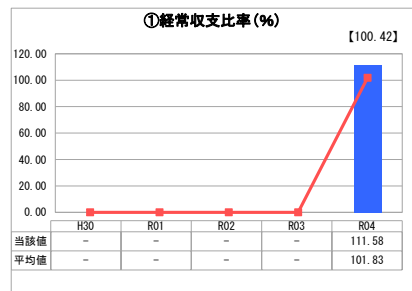
佐賀県 嬉野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20 ³ 当たり家庭料金(円)
-	70.95	11.34	100.00	2,970

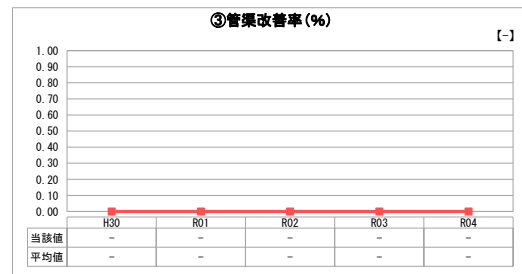
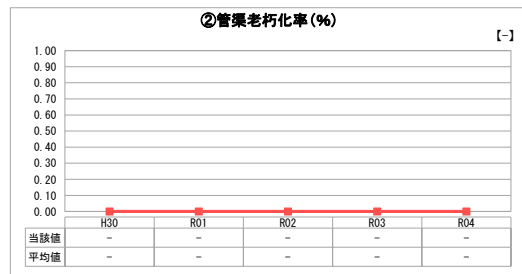
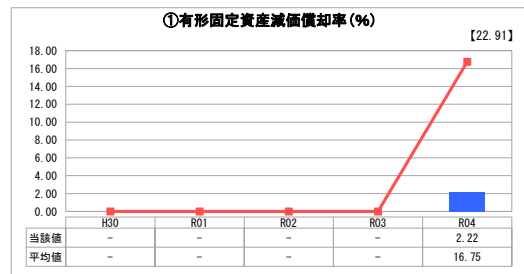
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,090	126.41	198.48
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
2,824	120.55	23.43

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本市の下水道事業は、令和4年度から地方公営企業法を適用し、公共下水道事業・農業集落排水事業・特定地域生活排水処理事業の3事業を1つの「下水道事業」として経営している。特定地域生活排水処理については、毎年80基を目標に整備を行っている。

①経常収支比率は、100%を超えているが一般会計からの補助金に依存している。

②累積欠損金比率は、0%であり今後も維持するよう努める。

③流動比率は、平均値に対し低い。建設工事の財源を起債で調達しているため毎年の企業債償還額が多額であり、また、一般会計に移行し間がないため、過年度からの積み上げがなく現金預金に乏しいことが平均を下回った要因である。

④企業債残高対事業規模比率は、0%である。

⑤⑥平均値とほぼ同値である。しかし、経費回収率については50%を下回っており、使用料以外（一般会計補助金）から賄っているのが現状である。経費削減や適正な使用料の確保を検討する必要がある。

⑦⑧平均値を上回っている。また、浄化槽事業のため水洗化率は100%である。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、平均値を大きく下回っている。令和4年度に地方公営企業法を適用した際、これまでの償却累計額相当分を資産価格から控除した額を初年度の再取得価額として帳簿価格にしたことにより、前年度末までの減価償却累計額がないため、低くなっている。実際には、整備からの年数を経ていることに留意が必要である。市設置の浄化槽については、平成27年度から整備を行っており法定耐用年数を過ぎるものはない。帰属の浄化槽については、帰属を受ける前に検査を行い、必要に応じてパイプの交換や本体の補修工事を行っていただいたうえで受け取っている。しかし、経年劣化による修繕が発生しているものもある。

全体総括

建設事業については、整備を行っているものの設置基数が鈍化傾向にある。

また、経営については、持続可能な下水道の事業運営のため、中長期的な視野で経営課題を分析する必要がある。適正な使用料の確保、維持管理費の削減等により経営の改善を行っていきたい。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。